

県政も市政も、 県民の声、市民の声を尊重せよ、と訴えていきます

ふるさととは命 ふるさととは母

私のホームページ「小さな町の幸せ通信」のトップをかざる
写真、今年はこの位置からのものを世界に発信します。

昨年が続いて雪の中で新しい年を迎えました。カマキリ博士の今冬の降雪予想は例年よりも多めです。このところ、気象は毎年異常状態です。昨年は異常高温に泣かされ、師走には竜巻まで起こりました。上越での竜巻発生という事態は、初めてかも知れません。

さて政治は昨年も激しく動きました。民主党を中心とした政権が誕生して二年目。参院選挙では民主党に対する批判が噴出しました。長年続いてきた自民党政治に終止符が打たれ、平和と国民の暮らしを守る政治へと転換されるものと期待したにもかかわらず、相変わらず大企業中心、アメリカいいなりの悪政が続けられました。このことに対する批判です。特に後期高齢者医療制度廃止の先送りや沖縄・普天間基地問題についての対応は公約違反の裏切り行為として有権者の目にうつりました。当然の結果です。

駐中国大使・中江要介さん。「道理の力」と自主独立の立場に立った外交力が求められる重要な時代になってきています。さて、私たちが住む上越市は14市町村が合併して7年目に入りました。

昨年の9月議会でも村山市長は地域事業費制度の見直しを言いだし始めました。これから地域協議会などの意見を聞いていくようなことを言われていますが、すでに個別の地域事業については行政だけで行った「事務事業の総ざらい」によって存続か廃止かの評価を下してしまっています。こんなやり方ではないのでしょうか。地域事業は10年間に及ぶ新市建設計画に含まれている合併時の約束事です。しっかりと守っていかなければなりません。私は他党派の議員とも連携して頑張っていきたいと思えます。

今年には県議選挙の年でもあります。市民生活を守っていくためには、並行在来線問題一つ見てもわかるように県政も変えていく必要があります。私は上越市の議員として、県政問題でも市政問題でもみなさんの声を第一にして努力しますので、どうぞよろしく願います。

市議会議員 橋爪 法一

橋爪のりかずの
市政レポート

NO 1482
2011.1.2

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
Tel 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

今冬の初雪は一月一五日でした。この日は一月二日議会の最終日、朝からみぞれになり、本会議が始まる頃には本格的な雪となりました。議員控室から窓の外を見ると、雪がしきりに降っていて、市役所正面玄関前の小さな森もあつという間に真っ白です。鮮やかに紅葉し、市役所を訪れる人たちを楽しませていたカエデも雪をかぶってしまいました。

雪国に何十年も住んできた私ですが、初雪を見ると「いよいよ来たか」と緊張します。すでに、車のタイヤをスノータイヤにする、雪の下敷きになってはいけないものを片づけておくなど、冬に備えた最低限のことはやってあります。でも、気持の方は、雪が本格的に降るまでは「冬の生活」への切り替えがなかなかできません。本気で冬を迎える気持ちになれないのです。良く言えば、降ってほしくないという気持ち強い。悪く言えば、ものぐさなんですよ。

じつを言うと、今回もまた長靴の用意がしてありませんでした。毎年、初雪の後、地元で一八〇〇円ほどの長靴を買い求めるのが慣例になっています。家に長靴がまったくないわけはありません。しかし、ある長靴は農作業の時と豪雨災害の時に履くだけ。汚れているので、よそに出かける時に履くような代物ではないのです。

新品の長靴は廉価であっても履物として大活躍してくれます。これを履いていれば靴の中に雪は入りにくいし、雨が降っても、水溜りがあっても平気です。たとえ道路が凍ったとしても簡単にはすべらない。晴れた日に履いていると、ちょっと格好が悪いかもしれないけれど、まわりに雪があれば、不自然さはありません。革靴と長靴を足して二で割ったようなブーツというのがありますが、私はズボンを靴の中に入れないところが気に入ります。そんなわけで、私は冬の履物としては長靴が一番だと思っています。

さて、話を元に戻しましょう。初雪を迎えた時の緊張感は、日常生活の転換に伴うものです。雪が降れば、屋根から滑り落ちる雪の音が気になります。まとまった降雪となれば玄関前、車庫前の除雪など余計な仕事も出てきます。降雪にともなって生活のスタイルもスピードも変わってきます。

その代表格は車の運転でしょう。走るスピードといい、ハンドルの握り方といい、雪のない時とは違ったものになります。これまで一般道路において時速五〇キロ、六〇キロで走っていたスピードを三〇キロ、四〇キロのレベルまで落とさなければなりません。路面のちよつとした凸凹にも気をつかいます。

もう三〇数年も前のことです。国道八号線、柿崎から柏崎へと車を走らせていた時でした。下りのカーブのところ私の車がスリップし、一回転してしまいました。後ろからの車は続いているし、対向車線には大型のトラックが走ってきていました。一瞬だめだと目をつむった恐怖の体験があります。この時は車も私もキズひとつなく済みました。その後、大型トレーラーと正面衝突してしまいました。

初雪の日の夕方、私の車には妻を含めて四人が乗り込みました。雪が降り、駐車場が空いているかどうかかわからないというところから、一台の車に乗ったのです。そして、車の中では正月の過ごし方などについて楽しいおしゃべりが始まりました。雪が降る冬は人と人がゆつくり話をする季節です。車に乗って遠くに出掛けるのをひかえて、たまには近所の人たちとお茶を飲みたいものです。

地域事業費など7つの柱で82項目の要望提出



12月27日、日本共産党上越地区委員会（伊藤誠委員長）と上越市議団は村山市長と会い、2011年度の予算編成についての要望書を提出しました。

要望書に盛り込んだものは雇用と中小業者を守る対策、地域事業費確保など7つの柱で82項目に上ります。これらの多くは昨年度、党市議団などに寄せられた市民の要望です。住宅リフォーム助成制度の継続、

学校・保育園などへのクーラー設置の促進などは新たに要望しました。

要望書を手渡した後、20分ほどではありましたが、村山市長と、子宮頸ガンワクチン、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンの接種のこと、住宅リフォーム助成、T P P問題、公契約条例などで和やかに懇談しました。新年度予算ではかなり思い切った新事業が出てきそうな気がしました。写真は懇談の様子です。



吉川区河沢の江村康成さんの作品です